



# AIDS UPDATE

No.146 2025/12/18

発行者：広島大学病院 エイズ医療対策室

電話番号：082-257-5555(代表)、内線：5351



## 「エイズ医療対策室」のご紹介

エイズ医療対策室 看護師 坂 本 涼 子

皆様、こんにちは。本院に「エイズ医療対策室」があることをご存じでしょうか？

### (設立の背景)

- ・1996年の薬害HIV訴訟の和解を受け、本院は1997年に中国四国地方ブロック拠点病院に指定されました。この病院の役割は次のとおりです(広島大学病院診療基本マニュアルより)。

- ・心理・社会的ケアを含む包括的な医療の提供
- ・中四国地域のエイズ診療支援
- ・医療従事者向けの教育・研修
- ・HIV感染症／エイズに関する情報提供
- ・研究活動

- ・同年、院内措置として「エイズ医療対策室」が設置されました。その役割は、厚生労働省が定めるブロック拠点病院としての機能と、院内でのエイズ医療の推進です。

### (現在の体制)

- ・医師：3名・看護師：2名・医療ソーシャルワーカー(MSW)：2名
- ・心理士：3名・情報担当：1名
- ・中四国エイズセンターのイメージキャラクターは：ACT(あくと)くん



### (場所・連絡先)

- ・場所：臨床管理棟1階
- ・開室時間：平日 8:30～17:15
- ・内線：5351



お困りのことありましたら、  
どうぞお気軽にご連絡ください。

### (「AIDS UPDATE」について)

- ・エイズ医療対策室では、広報誌「AIDS UPDATE」を発刊しています。1997年に創刊し、2025年9月には第145号を発行しました。年間3回程度の発刊を続けており、最新のHIV診療情報などをお届けしています。ぜひご覧ください！

### (中四国エイズセンター ホームページ)

- ・当センターでは、医療従事者の皆様向けに、研修会や最新情報をホームページで発信しています。また、「クイズDEエイズ」では、HIV/エイズの基礎知識をクイズ形式で学べます。ぜひ挑戦してみてください！

<https://www.aids-chushi.or.jp/>

# 地域医療機関でのHIV感染症患者のスムーズな受入れに向けた対策

## ～地域連携に携わるソーシャルワーカーと看護師等を 対象にしたHIV/AIDS実践報告・検討会の開催～

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 重信英子

本院はエイズ治療ブロック拠点病院として、HIV感染症患者の住み慣れた地域での治療体制の構築を目指しています。背景として、HIV感染症患者の地域医療機関での受入れ先を探す際に、感染症や受入れ経験が無いという理由で、受入れに躊躇する医療機関が多く遭遇するという課題があります。その戸惑いを軽減、無くすることを目標として、患者受入れ調整を担う、県内医療機関の地域連携室のソーシャルワーカー（以下、SW）と看護師に向けた研修を実施したので、報告いたします。

開催するにあたり、運営スタッフはエイズ拠点病院のSWと看護師に加えて、広島県・広島市・呉市・福山市にも要請し、地域全体の課題に取り組むネットワークを構築しました。各病院と地域での課題を抽出し、取り組むべき方向性を統一したこと、広島県が一体となり、ワンチームが出来上がったことはとても心強く感じました。

実践報告・検討会の案内は、日頃から連携している医療機関や広島県病院協会所属の医療機関、SWの職能団体などに行いました。2025年9月26日（金）の開催では、急性期、回復期リハビリテーション、療養型病院などに所属する14名のSWと看護師の方々に向けて、実際に患者を受け入れた実績のある病院と、その依頼をしたエイズ拠点病院のSWがタッグを組んで、受入れに至るまでの両施設の対応を報告しました。

受入れ要請に戸惑う「感染症対応」については、拠点病院医師が実施するHIV出前研修で、正しいHIV感染症の知識を持っていただく機会があること

をお伝えしました。次に、「薬価が高い抗HIV薬の処方」については、施設で初めての採用となるので、薬剤部や医事課との調整が必要なことを説明。そして何より、受入れに向けた院内調整を担っていただく協力者は、地域連携室であることをお伝えしました。エイズ拠点病院は、患者の療養を最後まで共に考える存在ですが、このメッセージは今まで伝えていたようで、伝わり切れていたかかったと反省しました。

参加者からは、「HIVについて初めて知る事ばかりだが、知れば対応は早い」、「日頃からHIVについて気軽に相談できる関係が欲しい」との感想をいただきました。今回開催したこと、受入れ側の不安を直接聞くことができ、今後はより一層、地域に情報伝える場を確保する必要があると実感できた実り多い会となりました。引き続き、行政と共に地域課題の解決に尽力したいと思います。



# 第1回中国・四国ブロック エイズ治療ブロック/ 中核拠点病院等薬剤師会議のご報告

薬剤部 薬剤主任 藤井 健 司

2025年11月1日岡山国際交流センターにて第1回中国・四国ブロックエイズ治療ブロック/中核拠点病院等薬剤師会議を開催いたしました。この会議は中四国ブロックのブロック拠点病院と中核拠点病院14施設のHIV担当薬剤師を集めて行いました。

この会議を企画した発端は、中四国ブロックのHIV担当薬剤師を知らない病院が多いと感じたことがきっかけでした。病院によっては担当者が変更し経験の少ない薬剤師が担当している病院もあり、ブロック内の中核拠点病院の実情がわかりませんでした。また、治療の均てん化という観点からも、担当薬剤師で情報共有を行い、知識をアップデートする機会が必要と考え開催しました。

中四国ブロック内のブロック/中核拠点病院全14施設中、11施設からの参加となりました。第1回ということもあり関係性を構築する上でも対面での実施としました。

内容は「当院から全国会議であるブロック拠点病院薬剤師連絡協議会の報告」、「各病院から現状報

告」、「中核拠点病院の2病院から薬剤師の活動報告」を行いました。最後に広島大学病院エイズ医療対策室長の藤井先生に特別講演をしていただきました。

中四国の中核拠点病院の薬剤師は初めて集まつたので、各病院の薬剤師の活動状況が共有できとても有意義な会となりました、それぞれ今回得た情報を持ち帰り今後の活動に活かしてもらえばより意味のあるものになると思います。

今後も薬剤師の活動をよりよくするために継続して開催していくこうと考えています。



## 令和6年度 中国・四国ブロック エイズ治療ブロック/ 中核拠点病院等看護担当者会議 開催報告

エイズ医療対策室 看護師 後藤志保

今年度は、主担当施設 愛媛大学医学部附属病院  
副担当施設 鳥取大学医学部附属病院で開催し、  
中四国ブロック内のブロック/中核拠点病院の全  
14施設中、13施設の27名が参加しました。参加  
者の希望が多かったWEB開催とし、昨年と同様に  
午前中の会議に加え午後に事例検討を行いました。  
今年は午後の事例検討の前に東京都立大学の島田  
恵先生に「外来看護は在宅療養支援」をテーマにご

講義いただき、事例検討にもゲストコメンテーターとして参加いただきました。

午前の「各施設の情報共有および検討」では、各施設の活動報告を行った後、業務上における課題について全体で討論し、患者対応についてのグループ検討を行いました。

島田先生のご講義に対し参加者のアンケートから「HIVだけでなくすべての外来看護に活かせる内容

であった」「セルフマネジメントは最終的に意志決定支援。患者さんがどうしたいのかを聞いていくことが大切」等の感想があり外来看護についての学びを深める貴重な機会となりました。

事例検討では患者の高齢化をテーマにした事例を香川大学病院 川田 通子さんよりご提供いただきました。グループ検討、検討内容のシェア、島田先生からのコメントという内容で進めていきました。アンケートでは島田先生のコメントの「困難症例の中でも患者の強みをみつけることで見え方が変わってくる、看護師のねばならないからの脱却」が印象に残ったという感想が多くありました。また、ディ

スカッションで課題の抽出、支援策の検討を行う中で多角的な視点に気づくことができ、事例検討は今後の支援に活かせると全員が回答し大変有意義な事例検討会となりました。

年に1回、中四国ブロック・中核拠点病院の看護師が集まる貴重な機会です。今後もますます充実した内容で実りの多い会議となればと思います。



## 第39回日本エイズ学会学術集会・総会参加報告

エイズ医療対策室 臨床心理士 黃 寛美

12月5日から3日間、熊本城ホールで開催された日本エイズ学会学術集会に参加しました。

「2回目の参加ですからね、もう慣れたものですよ！」と言いたいところですが、今年はポスター発表に挑戦したため、日が近づくにつれて緊張が高まり、前夜はなかなか寝つけず、出発直前にはお腹まで痛くなる始末でした。熊本に向かう前からすでに心身ともに消耗しておりましたので、会場でHIV医療チームのメンバーと合流したときの安堵感といつたらもう…。

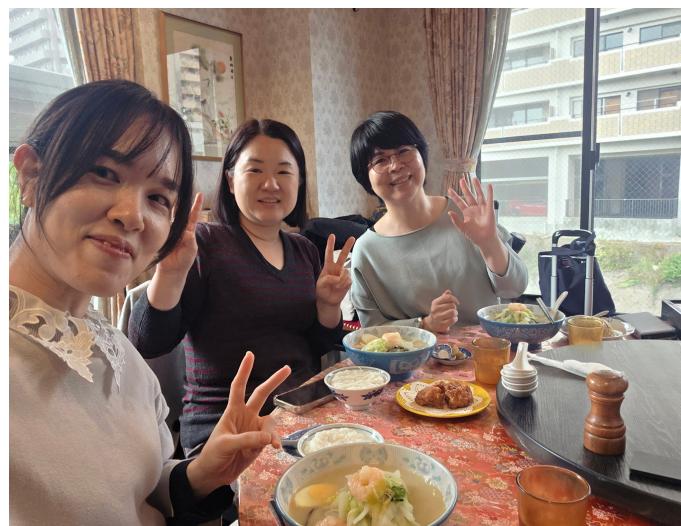


ポスター発表頑張りました！

ポスター発表の時間にはチームの皆さんがあざらに駆けつけてくださり、とても心強かったです。また、じっくりと読んでくださる方や、ありがたいことに質問をしてくださる方もおられ、初めてのポスター発表を無事に終えることができました。

その後はシンポジウムや一般演題にも参加し、発表内容に触れるたびに、心理士としての関わり方をあらためて見つめ直す機会となりました。

来年の学会は11月に岡山で開催される予定です。次回は今回より落ち着いてポスター発表ができるよう準備を進めたいと思います（もし口頭発表になつたらどうしよう…）。



学会終了後に、熊本のソウルフード  
タイピーエンをいただきました！